

## 歴史と文化 (History and Culture)

### 考古学概論 II (Outline of Archeology II)

中村 豊・准教授 / 埋蔵文化財調査室

2単位 後期 月 3・4

(平成 19 年度以前の授業科目: 『歴史と文化』) (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『考古学』)

**【授業の目的】** 日本列島は、温暖・湿潤な照葉樹林帯に属する西南日本と、温帯落葉広葉樹林が大半を占める東部日本に分かれ、それぞれの風土に応じた多様な歴史を展開してきた。この講義では、従来の一国史的な歴史像ではなく、「風土」に着目した新たな歴史像を、考古学の成果から学ぶことを目的とする。

**【授業の概要】** まず日本列島とそれをとりまく地域における気候や植生の特徴を把握する。次に、過去 1 万年間の気候変化を押さえ、日本列島内での気候・植生区分を見て、多様な生態を把握する。これをふまえた上で、旧石器時代から順に、縄文時代、弥生時代、古墳時代の順に、考古学からみた歴史像をえがいていく。従来の生産力発展の理論に則った一国史的な歴史像を描くだけなのではなく、人びとが、多様な生態とどのように関わりを持って来たのかをふまえた上で論じていく。なお、理解を助けるために、パワーポイントなど映像資料を用いる予定である。

**【キーワード】** 日本考古学, 風土, 気候変動, 生態系, 多様性

**【関連科目】** 『歴史と文化/考古学概論 I』(0.5), 『歴史と文化/東アジア考古学概論 I』(0.5), 『歴史と文化/東アジア考古学概論 II』(0.5)

**【到達目標】**

1. 日本列島をとりまく気候・風土を理解する。
2. 旧石器時代～古代の日本考古学のアウトラインを理解する。
3. 生産様式の発展とは異なる、人間と生態系とのかかわりの歴史を理解する。

**【授業の計画】**

1. いま、なぜ日本考古学を学ぶのか
2. 東アジアの生態的特徴と日本列島
3. 気候風土から日本列島のなかに多様な生態をみる
4. 生産様式の発展からみた考古学的歴史像とその問題点
5. 自然環境と人間とのかかわりからみた考古学的歴史像
6. 旧石器・縄文時代初期の日本列島
7. 縄文時代の気候変化および列島東部と列島西部の地域性
8. 世界の農業からみた水田稲作
9. 縄文から弥生へ 1 -大陸文化の導入-
10. 縄文から弥生へ 2 -社会・文化の変化-

11. 弥生時代の食生活ー本当に稲穂はゆれたのかー

12. 「邪馬台国」の時代 1 -その前夜-

13. 「邪馬台国」の時代 2 -謎の女王卑弥呼-

14. 前方後円墳の時代

15. レポート提出

16. 総括授業

**【教科書】** 教科書は使用しない。適宜プリント資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。

**【成績評価の方法】** 授業への取り組み状況、学期末のレポートにより総合的に評価する。

**【再試験の有無】** 無

**【受講者のメッセージ】** 考古学に興味のある学生なら、学部・専攻分野・文系理系にかかわらず受講を歓迎する。

**【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221052>

**【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】**

⇒ 中村 (088-633-7224, [yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp](mailto:yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp)) MAIL (オフィスアワー: 8 時 30 分 ~ 17 時 30 分)